

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

# ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895  
FAX 098-863-1495

## 経営者への活きた言葉

**事業家は「誰でもやれそうなものを事業にする」 稲盛 和夫 (京セラ名誉会長)**

1. 誰でもやれる簡単なこと、それを事業にするのが事業家です。禅問答のようですが、誰でもできそうな、一見、事業でないようなことを事業にするのが事業家です。中小企業の仕事は、ハイテクでもなければ華やかな事業でもない。そのため、どうしても継ぎたくない、と内心想っているながらも後を継がなくてはならず、しょうがないから継いだというケースが多いと思います。
2. そのように、二代目、三代目の経営者は、あまりいい事業ではないと思いながら仕事をするので、自分の仕事に誇りをもっていません。そのため、会社が低迷するのです。後を継いだ事業が発展していくのは、「この仕事は大変いい仕事だ」「お父さんから素晴らしい仕事をいただいた」「この仕事を誇りに思える」と心境が変わったときです。そのときから、会社は様変わりしていきます。
3. 事業というのは、そんなに派手なものではありません。立派そうに見える事業が最初からあるわけではありません。誰でもやれそうなもの、それを事業にするのが事業家です。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2019年1月19日号)

## 人事労務について

**業績評価だけだと人は育たない**

**樋口武男 (大和ハウス工業会長兼 CEO)**

1. 1970年代初めは、住宅販売の売上棟数など業績で社員を評価する傾向が強かった。ただ業績を中心にして評価するうちに、目立つ人ばかりが昇進するのは良くないという声が出てきました。部長や課長になるには、人を動かし、育てるなど必要な能力があります。業績ばかり見ていると、そこがうまくいかない。
2. それで1970年代の途中から、指導力や育成力、協調性といったものを評価するようになった。また、2015年度からは、「アクティブ・エイジング制度」を導入し、65歳になっても意欲があって、一定の業績が認められる人はさらに働けるようにしました。

(参考:「日経ビジネス」2019年2月4日号)

## 経営者のための理念・哲学

**苦があれば光もある**

**横田南嶺 (臨済宗円覚寺派管長)**

1. 私は「この道より我を生かす道なし。この道を歩く」という思いで今日まで修行に臨んでいます。浄土宗の妙好人として知られる浅原才市の言葉に、「海には水ばかり 水をうけもつ底あり さいちには 悪ばかり 悪をうけもつ阿弥陀あり」があります。人生が苦痛に満ちているように見えるのは、それを支えている底がある。大いなるものに支えられているから、苦痛も感じることができるのだと言っています。
2. 坂村真民先生の言葉に、「影あり仰げば月あり」という短い詩がございます。影というのは月があるから見える。我々が苦を自覚しているということは、必ずそれを支える底もあるし、照らす光もある、ということです。

(参考:「致知」2019年4月号)

## 古典に学ぶ

**克己心を持つ**

(解説) 悪いと知りつつ改められぬのは、つまり克己心の足らぬのである。余の経験によれば、習慣は老人になってもやはり重んぜねばならぬと考える。それは青年時代の悪習慣も、老後の今日に至って努力すれば改められるものであるから、今日のごとく日に新たなる世に処しては、なおさらこの心を持って自重して行かねばならぬのである。(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)